

<インフルエンザ予防接種説明書>

1. インフルエンザ感染と症状

インフルエンザは、インフルエンザにかかった人の咳やくしゃみなどにより、ウイルスが空中に広がり、それを吸い込むことによって感染します。38 度以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛等全身の症状が現れます。併せて普通の風邪と同じように、のどの痛み、鼻汁、咳等の症状も見られます。高齢者の方や免疫力の低下している方では肺炎を伴う等、重症になることがあります。

2. インフルエンザ予防接種の有効性

インフルエンザのワクチンを接種すればインフルエンザにかからないというものではありませんが、発症を抑える効果が一定程度認められています。また、発症後、多くの方は1週間程度で回復しますが、中には肺炎等の重い合併症が現れ、入院治療を必要とする方や死亡される方もいます。ワクチンの最も大きな効果は、この重症化を予防する効果です。

3. インフルエンザ予防接種の副反応

比較的多くみられる副反応には、接種した場所（局所）の赤み（発赤）、はれ（腫脹）、痛み（疼痛）等が挙げられます。全身性の反応としては、発熱、頭痛、寒気（悪寒）、だるさ（倦怠感）などが見られますが、通常2～3日でなくなります。また、まれではありますが、ショック、アナフィラキシー様症状（発疹、じんましん、赤み（発赤）、掻痒感（かゆみ）、呼吸困難等）が見られることもあります。接種後すぐに起こることがあるので注意が必要です。

4. 予防接種を受けることが適当でない方

- ・明らかに発熱（37.5度以上）をしている。
- ・急性の重い病気にかかっている。
- ・予防接種に含まれる成分や鶏卵等で、ひどいアレルギーを起こしたことがある。
- ・以前にインフルエンザ予防接種をして、2日以内に発熱や発疹等のアレルギーを疑う異常がみられた。
- ・その他、医師が不適切な状態と判断した場合。

5. 予防接種を受けるに際して、担当医師とよく相談しなくてはならない人

- ・心臓、腎臓、肝臓、血液の病気などで治療を受けている。
- ・過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある。
- ・過去に免疫状態を検査し異常が認められたことがある。
- ・間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器系疾患がある。
- ・ワクチンの成分に対しアレルギーがある。

6. 予防接種を受けた後の一般的な注意事項

- ・接種直後30分間は、急な副反応が起きることがありますので医療機関で様子を見ましょう。接種後24時間は副反応の出現に注意しましょう。
- ・接種当日も入浴できます。接種した部位はこすらないようにしましょう。
- ・接種当日の過度な運動や飲酒は体調の変化をきたしやすいので避けましょう。
- ・接種部位の異常や体調の変化があった場合は、医療機関を受診しましょう。

7. 予防接種健康被害救済制度について

予防接種法に基づく定期の予防接種が原因で、生活に支障が出るような後遺症等の健康被害が生じた場合、医療費、医療手当等、予防接種法に基づく救済制度が適用されます。但し、その健康被害が「定期予防接種を受けたことによるものである」と厚生労働大臣が認定した場合に限ります。